

## 第1回久慈市沖浮体式洋上風力発電検討委員会 議事概要

日 時：令和3年6月17日（木）15：00～16：30

場 所：やませ土風館1階多目的ホール 及び ZOOMWEB 会議室

出席委員：北澤委員長<sup>\*</sup>、田中委員<sup>\*</sup>、後藤委員<sup>\*</sup>、皂委員（代理：濱欠氏）、外久保委員、兼田委員<sup>\*</sup>、山王委員<sup>\*</sup>、横内委員、佐藤委員<sup>\*</sup>、高橋委員、阿部委員<sup>\*</sup>、和村委員、森山委員、東山委員<sup>\*</sup>、皂委員、桑田委員、嵯峨委員、久松委員、谷崎委員、大崎委員 ※は ZOOMWEB 参加者

## 1. 主な議事

### 【市長挨拶】

政府動向などから再生可能エネルギーの需要が高まっており、将来的には洋上風力は非常に有望である。全国の電力を担う勢いで取り組んでいきたい。昨今の漁獲量が年々減少しているが、洋上風力が設置されると数多くの漁礁が生まれることも期待される。久慈市の洋上風力事業を早い時期に実現したい。

【議事1】 本事業と検討委員会の設立について

【議事2】 今ゾーニング実証事業について（振り返り）

【議事3】 令和2年度の実施状況

【議事4】 令和3年度の計画

【議事5】 その他

## 2. 主な意見等

### 【議事1関係】

特になし

### 【議事2関係】

・事業で得られた電力の出力調整や送電線網などの事業の外部環境の整備はどこが担当するのか。  
→再生可能エネルギーの導入促進における出力調整などについては、検討中である。具体的な方策については適宜議論している。

・エネルギーの地産地消の適応範囲について教えてほしい。  
→まずは久慈市内を想定しており、将来的には北岩手循環共生圏全体を目指す。

・現在、電力会社の電力を利用していると思うが、全て洋上風力の電力に変えるのか、もしくは電力会社に売った電力を利用するのか。  
→基本的には FIT 売電であるが、将来的には地産地消を想定している。FIT 終了後は地域の電力による供給を検討していきたい。

・地域の産業がこの電力を使うことのメリットを感じられるよう検討する必要がある。  
→そのように検討していく。

### 【議事 3 関係】

- ・漁が盛んになるのは5月上旬以降であるため、魚群の調査は5月以降であるとよい。漁業者は海域の潮流の動きに興味があるが、観測は今後も行うのか。津軽暖流が最も強まるのが10月だが、秋季も実施するのか。
- 潮流の観測は秋季を含めあと3季調査を行う予定である。魚類調査は6月の末にROV調査を行う予定で、あわせて、聞き取り調査も引き続き行う。
- ・洋上風力による魚群への影響について、マダイが反応するという研究がある。東日本大震災以降、久慈市周辺でも定置網でマダイが捕れることがあり、今後洋上風力発電が影響を及ぼす可能性がある。この地域のマダイの漁獲についてはまとまったデータがなく難しいが、念頭に置いておくことで、後々対応できると考える。
  - ・景観や低周波音などについては、ゾーニング事業において検討したため今回は検討しないのか。鳥類については、専門家と情報交換をしてやってほしい。
- 景観や低周波音についてはゾーニング時に検討を行った。今後、設置場所が絞られたときに再度検討することも考える。低周波音は、陸地と距離が離れていることから除外できると考えた。鳥類については、ゾーニングに引き続き専門家に指導・助言をいただく。

### 【議事 4 関係】

- ・漁業との協調の中で、持続的な漁業の内容に具体性をもって将来像を設計するとよいのではないか。例えば、洋上風力の設置により漁船が入ることができない領域が形成されることで、主要漁獲魚種であるマコガレイやタラなどの魚類の産卵場が保全され、将来的な漁獲が期待できるのではないか。風車の設置により漁業ができる範囲が狭くなるという説明ではなく、産卵期の魚類の保護、海洋保護区(MPA)の役割を担うということも一つの方法である。また、産卵期を明らかにするため、冬季の産卵状態を評価してはどうか。
- そのように事業が進めたいと考える。事業者と漁業者の双方に利益が生じるようにするのが重要なミッションである。今後も漁業者とコミュニケーションをとっていききたい。隣接する県から漁業をする方や、全国規模で漁業をしている方々からも理解を得ていききたい。冬季は、ROV調査は難しい。漁業者への聞き取り等で実施していききたい。
- 漁獲した魚の生殖腺を調べることで、産卵場になっているか調べることができる。漁業者との協力体制のもとで検討するとよい。
- ・資料4の令和3年度実施内容について、資料後半の「ミッション」との関連が見えないが、狙いについて教えてほしい。
- 「ミッション」はタイトルとは異なる内容ではあるが、本事業を進めていくうえで念頭に置いておくものとして示した。
- ・景観や地域住民についても検討する必要があるのではないか。
- 地域住民とのコミュニケーションは非常に重要だと認識している。本事業の目的が事業性やCO<sub>2</sub>削減効果の検証であるため、地域住民とのコミュニケーションについては薄くなっているが、ポスター展示、アンケートなど、可能な限り情報開示と意見収集を行いたい。
- ・事業者選定のタイミングはいつ頃か。この三か年中に配慮書・方法書相当の内容を取りまとめるのは大変だが、県のアセスの部局が関わってくるので、調整が必要である。

→これまで事業者の選定は再エネ海域利用法プロセスのように後半に選定するものとなっていた。  
一方、久慈市のプロセスでは行政主導でやっていきたいので、事業者との協議は早いタイミングになると考える。

・CO<sub>2</sub>削減効果について、設備利用率、風車導入にかかる費用等の算定方法を教えてほしい。

→CO<sub>2</sub>の削減効果は環境省のフォーマットを利用し、JWPAなどで公表している資材の単価、風力発電業界や経産省の資料等既存資料を活用して算定したい。

**【その他】**

特になし